

ヤングシート Young Seat



7/13²⁰²⁵
(日) 会場 J:COMホール八王子

都響・八王子シリーズ
TMSO×Hachioji Series

指揮／大友直人 ヴァイオリン／服部百音

チャイコフスキー：

歌劇『エフゲニー・オネーギン』より

「ポロネーズ」

(約5分)

サン＝サーンス：

ヴァイオリン協奏曲第3番 ロ短調 op.61

(約29分)

チャイコフスキー：

交響曲第5番 ホ短調 op.64

(約45分)

ホールでの 過ごし方

◎携帯電話や音の鳴るモノは
電源を切りましょう。

◎演奏中はお話ししないで静かに
聴きましょう！周りの人も演奏を
楽しみに来ています。

◎公演中の録音・録画、写真
撮影は禁止です。終演後の
カーテンコール時のみ
写真の撮影が可能です。

東京都交響楽団

[[Program Notes]] プログラムノート

今日のコンサートでは、ロシアの作曲家チャイコフスキーと、フランスの作曲家サン＝サーンスの音楽を聴きましょう。二人とも、オーケストラから豪華で豊かな響きを引き出す巨匠です。

チャイコフスキー：

歌劇『エフゲニー・オネーギン』より「ポロネーズ」

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840-93)は、バレエ音楽「白鳥の湖」や「くるみ割り人形」、6つの交響曲などで広く知られていますが、歌劇も残しています。

『エフゲニー・オネーギン』は、チャイコフスキーの5作目の歌劇で、1878年2月、38歳の時に完成しました。劇のあらすじは、田舎の文学少女タチヤーナが、主人公のオネーギンに恋心を抱きます。しかしオネーギンはまったくタチヤーナに振り向かず、その妹オリガをめぐる彼女の恋人と決闘し、銃で殺してしまいます。数年後、美しい公爵夫人へと成長したタチヤーナに、今度はオネーギンが惹かれますが、大人になった2人はついに結ばれず……。演奏される「ポロネーズ」は、オネーギンとタチヤーナが再会する舞踏会で、人々が優雅に踊るシーンの音楽です。



ボリショイ劇場225周年記念で発行された50ルーブル硬貨の裏面。
『エフゲニー・オネーギン』の一場面が刻まれている。

サン＝サーンス：

ヴァイオリン協奏曲第3番 口短調 op.61

サン＝サーンス(1835～1921)は、86年の生涯のあいだに、オーケストラやピアノ曲、教会音楽、オペラなど、さまざまなジャンルの音楽を生み出しました。さらに、天文学や哲学、数学にもくわしく、多方面にわたる才能を持っていた人です。ピアノやオルガンの演奏も得意で、音楽学校の先生として多くの弟子も育てました。

そんなサン＝サーンスは、独奏ヴァイオリンとオーケストラのための作品をいくつも作り、ヴァイオリンのレパートリーを増やすことに貢献しました。ヴァイオリン協奏曲は全部で3曲残しています。



Camille Saint-Saëns
1880年(45歳)頃

その最後の作品である第3番短調は1880年、サン＝サーンスが45歳の年に作曲されました。スペインの名ヴァイオリニストのパブロ・デ・サラサーテ（1844～1908）に捧げられています。第1楽章は厳粛な雰囲気が始まり、オーケストラは力強く、ヴァイオリン独奏は華やかでロマンティックなメロディーを奏でます。第2楽章はがらりとムードを変えて、穏やかで明るい舟歌のような曲想となります。歌心にあふれるヴァイオリンのメロディーに応えるように、オーボエ、フルート、クラリネットといった木管楽器も活躍し、甘い響きを聴かせます。第3楽章はヴァイオリンの序奏で開始し、再び力強くドラマティックな音楽となります。躍動感あふれる独奏ヴァイオリンの主題や、中間部の讃美歌のような弦楽合奏、後半の金管楽器のアンサンブルも印象的です。推進力のあふれるフィナーレで立派に締めくくられます。

チャイコフスキー： 交響曲第5番 木短調 op.64

後半はチャイコフスキーの交響曲です。「交響曲」とは「響きが変わる」と書かれるように、さまざまな楽器が活躍し、色鮮やかに響き合うオーケストラ曲のことです。チャイコフスキーは生涯に6つの交響曲を残していますが、本日演奏される5番目の交響曲は1888年に作られました。

第1楽章の冒頭はクラリネットが重々しいメロディーを奏でます。



これは「運命」と言われているテーマで、この作品全体にわたって登場するので、しっかりと心に刻んでください（ただし登場するたびに演奏する楽器や強弱が異なり、さまざまな表情に変化します）。やがて歩みを進めるような主題が現れ、情熱的に展開していきますが、楽章全体はどこか重い雰囲気に包まれています。第2楽章も暗く静かに始まりますが、すぐにホルンが柔らかなメロディーを奏でます。クラリネットがそれに寄り添い、オーボエは光射すようなモチーフを奏で、音楽は広がり見せます。続く第3楽章は、当時の交響曲としては珍しく優雅なワルツ（3拍子の舞曲）となります。バレエ音楽の大家でもあるチャイコフスキーらしい展開です。第4楽章は、第1楽章冒頭の「運命」のテーマが、優しく明るい表情で登場します。力強く雄大な広がりを見せたのち、運命に勝利するかのようにテーマが輝かしく鳴り響きます。クライマックスをへて、行進曲のような力強い音楽で締めくくられます。

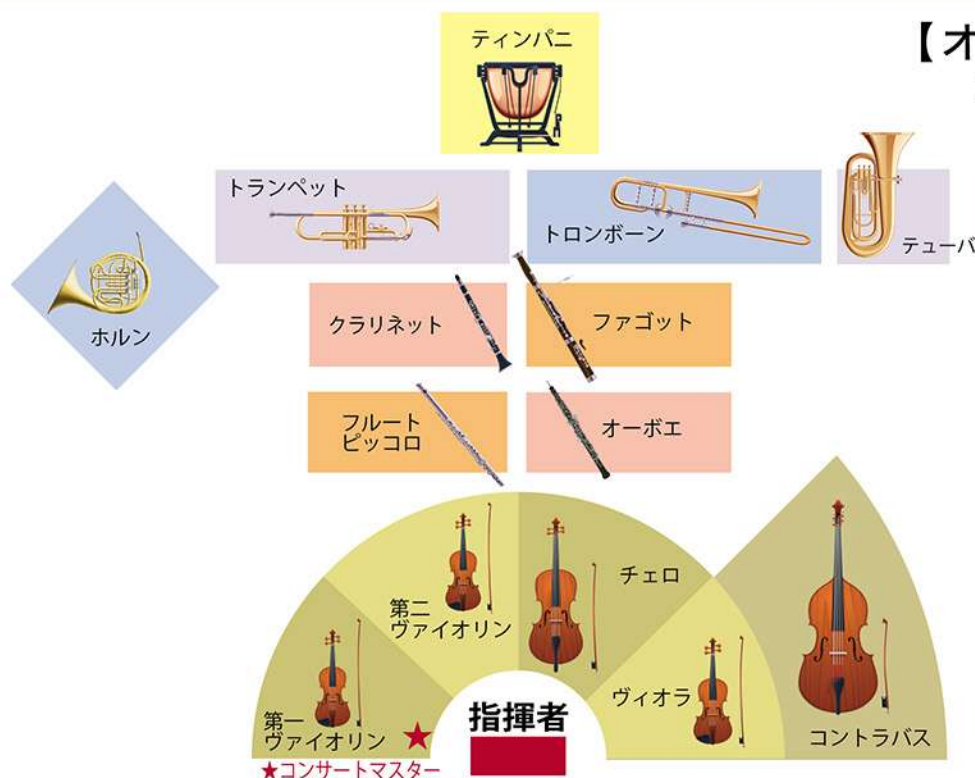


Peter Ilyich Tchaikovsky
1888年（48歳）頃

【オーケストラ配置図】

7/13 都響・八王子シリーズ

※楽器の配置は一例です。
当日のステージで確認
してください。



© Rowland Kirishima

指揮

大友直人 Naoto OTOMO, Conductor

桐朋学園大学在学中に22歳でN響を指揮してデビュー以来、わが国を代表する指揮者のひとりとして日本の音楽界をリードし続けている。現在は東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団音楽監督、高崎芸術劇場芸術監督、瀬戸フィルハーモニー交響楽団ミュージックアドバイザーを務める他、大阪芸術大学教授、東邦音楽大学特任教授。京都市立芸術大学、洗足学園大学各客員教授として後進の指導にあたっている。

邦人作曲家作品の初演やジョン・アダムズのオペラの日本初演など幅広いレパートリーでも知られている。

Profile



© YUJI HORI

ヴァイオリン

服部百音 Moné HATTORI, Violin

5歳よりヴァイオリンを始め、10歳でリピンスキ・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン・コンクール史上最年少第1位受賞、以後様々な国際コンクールでグランプリを受賞。2011年イタリアでのリサイタルを皮切りに演奏活動を始める。ロシア、スイス、ドイツなどで公演を行う他、国内主要オーケストラとも共演を重ねている。

「シヨスタコーヴィチ：ヴァイオリン協奏曲第1番、ワックスマン：カルメン幻想曲」でCDデビューし、高い評価を受けた。新日鉄住金音楽賞、出光音楽賞など多数受賞。

使用楽器は日本ヴァイオリンより特別貸与されたガルネリ・デル・ジェス。

管弦楽

東京都交響楽団 Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

東京オリンピックの記念文化事業として、東京都が1965年に設立し、2025年に創立60周年を迎えた。都響(ときょう)という愛称で親しまれている。

東京文化会館(上野)を本拠地として、オーケストラの演奏会を開催する他、交響組曲『ドラゴンクエスト』(全シリーズ)などゲーム音楽の演奏、教育活動や福祉施設での出張演奏など多彩な活動を展開している。



© Rikimaru Hotta



<https://www.tmsso.or.jp/>